

県内の温室効果ガス排出量の状況について

岡山県環境文化部
新エネルギー・温暖化対策室

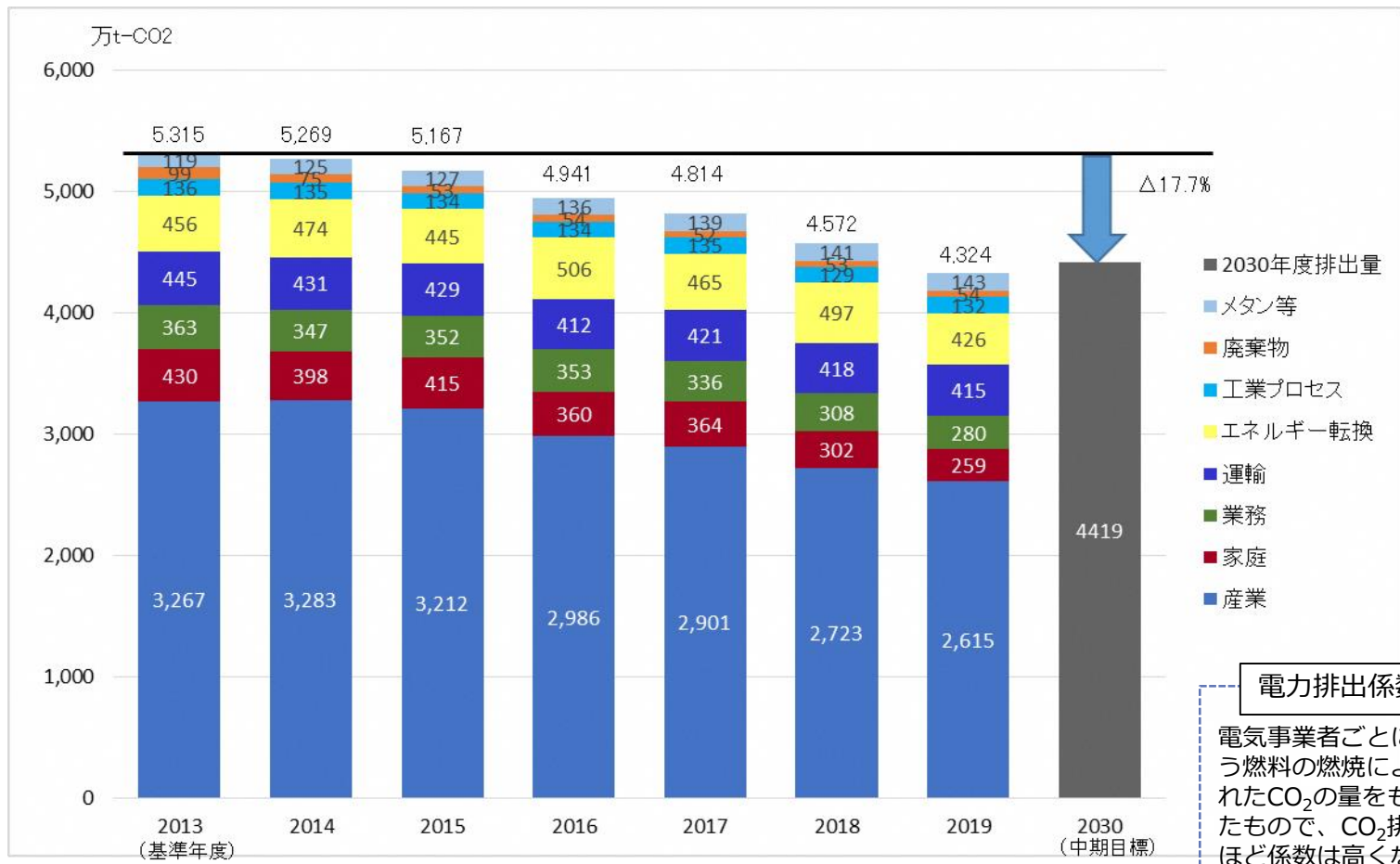
1 温室効果ガス排出量内訳

岡山県の温室効果ガス排出量は、2019年度の値で基準年度（2013年度）比18.6%の削減となり、現行計画の目標（17.7%削減）を達成している。これには、産業部門が基準年度比20%の削減と部門別目標を大きく上回っているところが大きい。

区分	基準年度 H25年度 (2013年度)	R01年度 (2019年度)		2030年度 目標削減率		
		速報値	基準年度比 増減率		構成割合	
二 酸 化 炭 素	産業部門	3,267	2,615	△ 20.0%	60.5%	△6.5%
	製造業	3,231	2,588	△ 19.9%	59.9%	—
	民生部門	793	539	△ 32.1%	12.5%	—
	家庭	430	259	△ 39.9%	6.0%	△39.3%
	業務	363	280	△ 23.0%	6.5%	△39.8%
	運輸部門	445	415	△ 6.8%	9.6%	△27.6%
	自動車	387	366	△ 5.4%	8.5%	
	エネルギー転換部門	456	426	△ 6.5%	9.9%	△27.6%
	工業プロセス	136	132	△ 2.6%	3.1%	△6.8%
	廃棄物部門	99	54	△ 45.4%	1.2%	
計	5,196	4,181	△ 19.5%	96.7%	—	
メタン	41	37	△ 8.4%	0.9%	△12.2%	
一酸化二窒素	24	24	0.7%	0.6%	△4.2%	
代替フロン類	54	82	51.2%	1.9%	△25.9%	
合計	5,315	4,324	△ 18.6%	100.0%	△17.7%	
全国	1,408百万t	1,212百万t	△ 14.0%	—	△46%	

2 温室効果ガス排出量 年度推移

岡山県の温室効果ガス排出量は、電力排出係数低下の影響、省エネの取組の寄与等により、基準年度から毎年減少している。



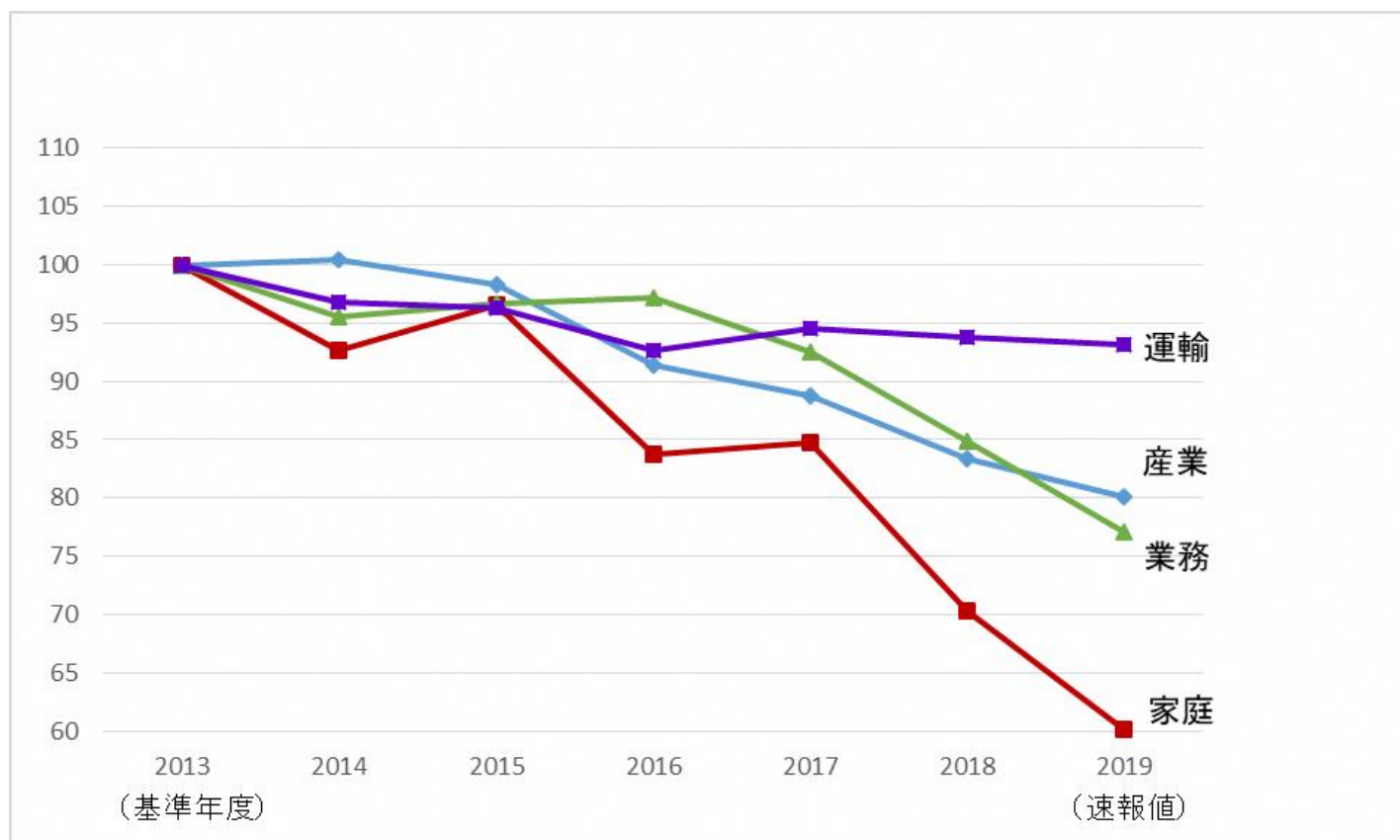
電力排出係数
Kg-CO₂/kwh

0.719 0.706 0.697 0.691 0.669 0.618 0.561

電力排出係数とは
電気事業者ごとに、発電に伴う燃料の燃焼によって排出されたCO₂の量をもとに算出したもので、CO₂排出量が多いほど係数は高くなる。国が毎年度小売電気事業者から情報を収集・確認し、公表している。

3 温室効果ガス排出量 部門別増減

基準年度（2013年度）を100とした場合の指数で見ると、すべての部門で減少傾向にあり、特に産業・業務・家庭部門は80以下と大幅に減少している。



4 部門ごとの二酸化炭素排出量の状況と要因

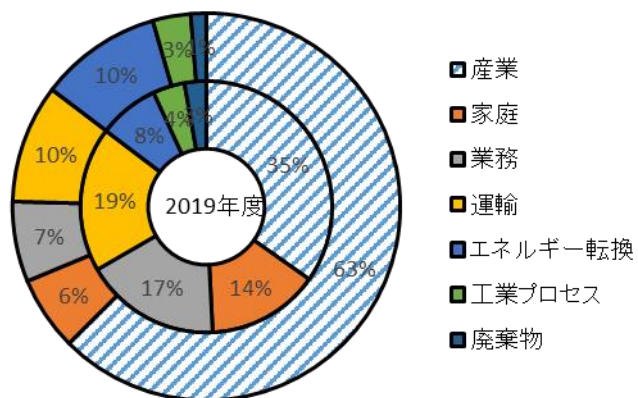
(1) 産業部門

産業部門は製造業や農林水産、鉱業、建設業からの排出量が計上されており、排出量の約99%を製造業が占めている。排出量の構成比は県全体の約6割を占める。

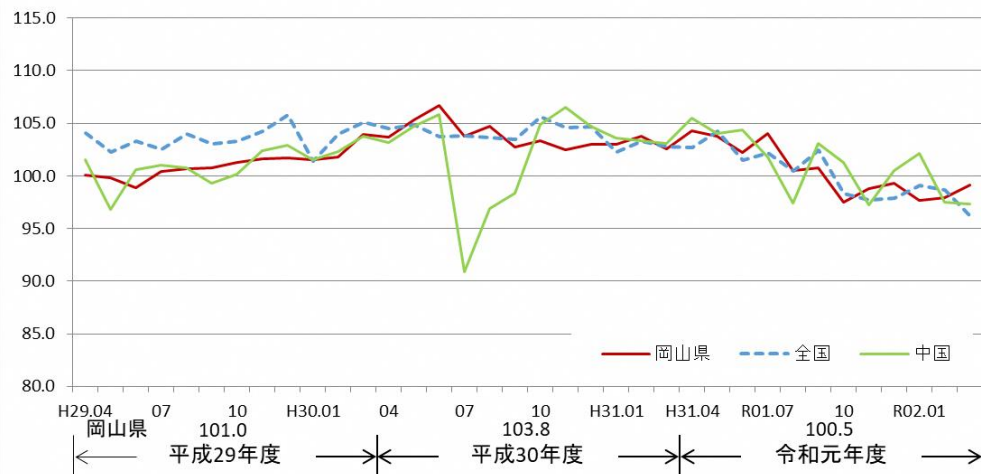
【2019（令和元）年度（速報値）】

対基準年度比では20.0%減少している。主な経済指標である鉱工業生産指数は、2015（平成27）年度を100とした値から大きく変化していないことも考慮すると、県内企業の省エネの推進や電力の排出係数が低下したことが主な要因として考えられる。

二酸化炭素排出量の構成比（外側：岡山県 内側：全国）



鉱工業生産指数の推移（H27=100 季節調整済）



※「中国」の平成30年度の落ち込みは、「広島県の平成30年7月豪雨」によるものである。

4 部門ごとの二酸化炭素排出量の状況と要因

(2) 家庭部門

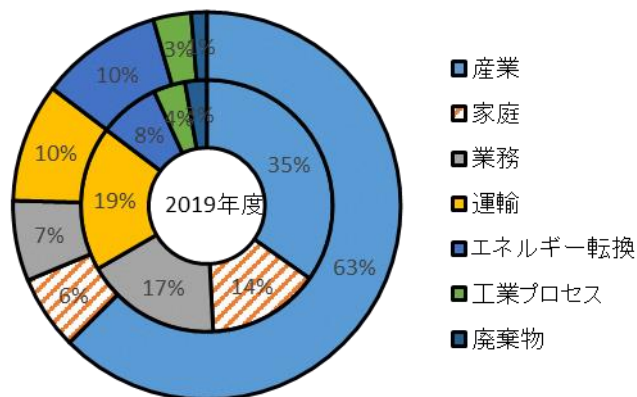
排出量の構成比は県全体の約6%を占めている。

【2019（令和元）年度（速報値）】

対基準年度比では39.9%減少している。世帯数が基準年度から4.7%増加しているものの、エネルギー使用機器の高効率化、住宅の断熱性能向上等により、1世帯あたりのエネルギー消費量が減少したことや、電力の排出係数が低下していることが主な要因として考えられる。

県内の人口及び世帯数の推移

二酸化炭素排出量の構成比(外側:岡山県 内側:全国)



4 部門ごとの二酸化炭素排出量の状況と要因

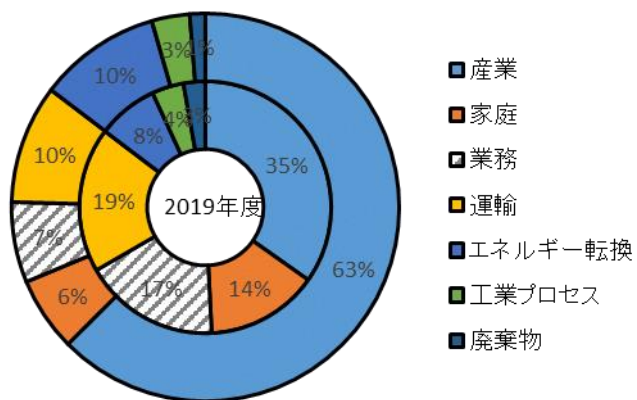
(3) 業務部門

排出量の構成比は県全体の約7%を占めている。

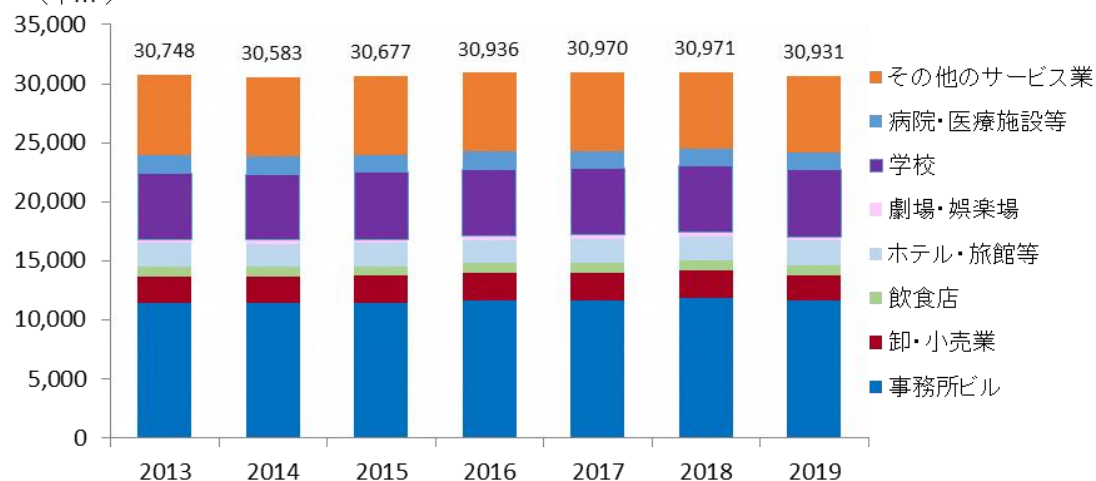
【2019（令和元）年度（速報値）】

対基準年度比では23.0%減少している。基準年度からの減少は、業務用施設の延べ床面積は基準年度比で0.6%微増しているものの、エネルギー使用機器の高効率化、建物の断熱性能向上等や、電力の排出係数が低下していることが主な要因として考えられる。

二酸化炭素排出量の構成比(外側:岡山県 内側:全国) (千m²)



県内の建物用途別延べ床面積の推移



4 部門ごとの二酸化炭素排出量の状況と要因

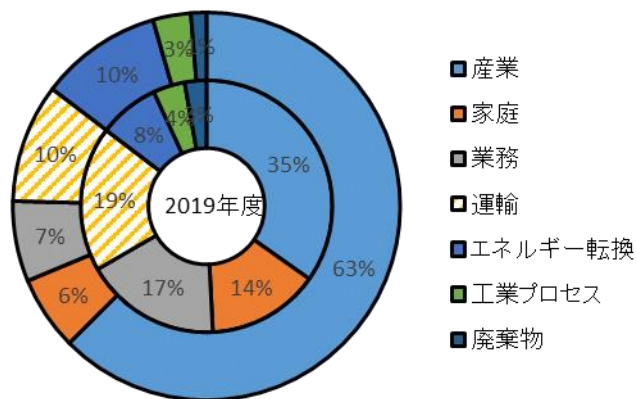
(4) 運輸部門

運輸部門は自動車、鉄道、船舶、航空からの排出量が計上される。排出量の構成比は県全体の約10%を占め、運輸部門の排出量の約87%を自動車が占めている。

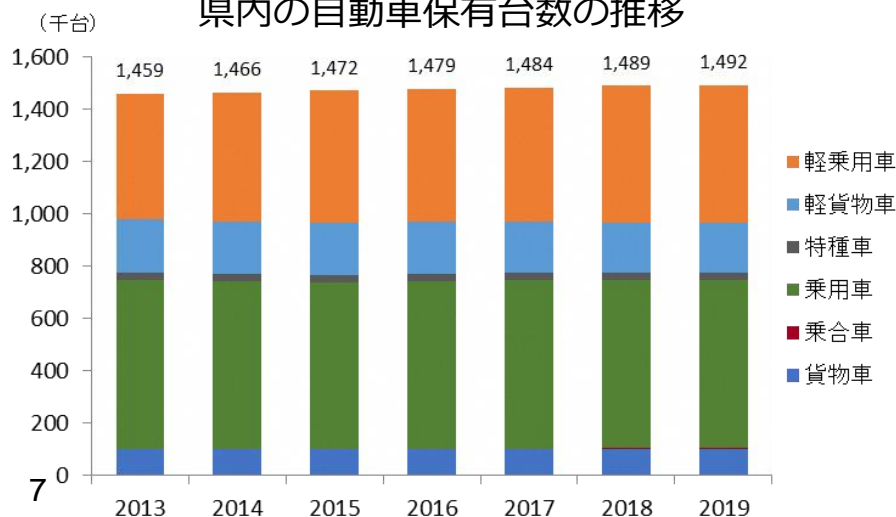
【2019（令和元）年度（速報値）】（自動車）

対基準年度比では5.4%減少している。県内の自動車保有台数は増加しているが、燃費の改善が進み、1台当たりのエネルギー消費量が減少したことが主な要因と考えられる。

二酸化炭素排出量の構成比(外側:岡山県 内側:全国)



県内の自動車保有台数の推移



5 新エネルギー導入目標 (おこやま新エネルギービジョン)

新エネルギー由来の発電量の 県内総電力使用量に占める割合

2020 (令和2) 年度実績

15.4%

(目標: 2022年度 21.1%)

(現状)

太陽光発電の伸びが想定よりも鈍化している

	発電電力量	
	R2年度	目標値 (百万kWh)
太陽光発電	2,472	4,283
(うち10kW以上)	2,120	3,825
うち住宅用 (10kW未満)	352	458
水力発電(中小)	97	84
バイオマス発電	246	264
風力発電	0	94
合計 A	2,815	4,725
県内の総電力消費量 B	18,323	22,420
A/B	15.4%	21.1%

固定価格買取制度に基づく認定・導入設備容量及び都道府県別エネルギー消費統計(資源エネルギー庁資料)をもとに作成。

設備利用率(太陽光(うち10kW以上): 14%、太陽光(うち住宅用): 13%、水力: 60%、バイオマス: 80%、風力: 20%)